

本因坊三代を生んだ 囲碁のまち さって



平成11年度からボランティアの協力により実施した市史編さん事業「市内石造物調査」において、本因坊第8世伯元・第9世察元・第10世烈元の墓石が相次いで発見されました。

これは囲碁界でも非常に珍しい発見で、幸手市の誇るべき地域資源として理解されてきています。

現在、幸手市では囲碁を通じて、より多くの子どもたちが郷土の歴史と文化の素晴らしさを理解する心の育成を期待し、子ども囲碁大会や学校囲碁指導員による小学校での囲碁指導を実施するなど、明日を担う子どもたちが幸手市とゆかりのある囲碁文化に触れ、楽しむ機会を増やすための取組を行っています。

こうした囲碁文化普及の機運の高まりに合わせ、平成26年5月には、3つの墓石を市指定文化財に指定、平成27年度からは幸手本因坊・子ども本因坊大会も開催されるなど、幸手の囲碁は、ますます盛り上がりを見せています。

本因坊とは？

「本因坊」とは、^{じやっこうじ}寂光寺（京都府京都市左京区仁王門通東大路西入北門前町）の塔頭（^{たっちゆう}大きい寺院の中にある小さな寺）の1つで、その僧侶算砂が信長・秀吉・家康に碁を教え、碁界の頂点にある江戸幕府の碁所に就いたところから、囲碁の一流派の名前になったものです。

本因坊家は、代々世襲制を取っていましたが、第21世秀哉が引退した昭和14年以降は、本因坊戦の勝者に与える称号となりました。

本因坊家代々の墓は、第3世までが京都府の寂光寺に、第4世以降は東京都豊島区巣鴨の本妙寺にあります。このため市内に残る本因坊の墓石は分骨されたか、または、供養のために建てられたものだと考えられています。

第8世伯元・第9世察元・第10世烈元と3人もの本因坊が出ているのは全国でも幸手市だけです。

本因坊家											
第21世	第20世	…	第12世	第11世	第10世	第9世	第8世	第7世	第3世	第2世	第1世
秀哉	秀元(再襲)		丈和	元丈	烈元	察元	伯元	秀伯		道悦	算砂



本因坊第8世伯元の墓（天神島248）

伯元は、天神島の出身で享保11(1726)年に生まれました。15歳で囲碁の本因坊第7世秀伯の弟子となり、間もなく寛保元(1741)年に跡を継ぎ本因坊第8世となりました。

しかし、宝暦4(1754)年に病気のため、弟子の察元に跡目を譲るとすぐに亡くなりました。碁格は6段。墓石は天神島の共同墓地内の尾崎家墓所にあります。



本因坊第9世察元の墓（平須賀3018）



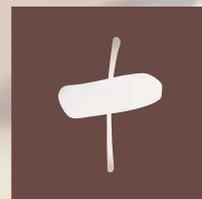
察元は、平須賀の出身で享保18(1733)年に生まれました。幼少のころから囲碁に長け、本因坊第8世伯元の弟子となり、宝暦4(1754)年に本因坊第9世を継ぎました。

明和3(1766)年に名人(9段)に昇進し、その後、明和7(1770)年には江戸幕府の碁所に任じられ、「棋道中興の祖」と称されました。没年は天明8(1788)年です。墓石は平須賀外郷内の共同墓地内にあります。



本因坊第10世烈元の墓（上吉羽396）

烈元は、上吉羽の出身で、寛延3(1750)年に生まれ、文化5(1808)年に亡くなり、碁格は準名人8段でした。烈元は幼少のころから本因坊第9世察元に弟子入りし、察元が碁所に就いた明和7(1770)年、21歳6段のときに察元の跡目になりました。天明8(1788)年、察元の死去に伴い家督を継ぎ本因坊第10世となりました。墓石は上吉羽の澤村家墓所にあります。



The "City Stonework Survey", which is a project made possible by the cooperation of volunteering city historians since 1999, has discovered gravestones of former heads of the Honinbo of Igo; the 8th head Hakugen, 9th head Satsugen and 10th head Retsugen. This is an extremely rare finding, even in the world of Igo, and it has come to be known as a regional resource which Sagami city is very proud of.

たくさんの方が参加し、腕を競い合う幸手本因坊・子ども本因坊大会は、世代を超えた貴重な交流の場となっています。

